

Los Naranjos

2000.10.6
生涯学習フェスティバル

褐色の
「ソン」が
やってくる
in
えぼあ

右の「ロス・ナランホス」公演より一足早くコミセンを舞台に繰り広げる「キューバフェスティバル・イン・えぼあ」は、飲んで食べて、サルサの熱いリズムに酔って、五感全部でキューバを体験しようというお祭り。この機会に

コミセンもキューバ

頭の先までどっぷりと浸かってみてください。
開催日 10月1日(日)。会場 コミュニティーセンター。入場料 500円。お問い合わせ 江別市民国際交流協会事務局 ☎385・5050まで。



「ロス・ナランホス」とはスペイン語で「オレンジの木」という意味です

この秋、えぼあの記憶に残るコンサートが開かれます。ここ数年、欧米でキューバの文化が大流行しています。日本でも音楽・美術・料理

と、今一番オシャレなのがキューバです。そして、今年キューバアートウィークというイベントが札幌を中心に行われ、我が江別もその動きに呼応しました。

「ソン」って何だ
「ソン」とは伝統的なキ

ューバ音楽で、「マンボ」や「チャチャチャ」の原型となったもの。

四〇年の封印が解けた

「世界で最も美しい島」ラテンアメリカ諸国一番のカリブに浮かぶキューバはコロンブスにこう形容された。
そのキューバが社会主義国となつてからおよそ四〇年の間、我々日本人に届くキューバの情報はほぼ全て「アメリカ」という「フィルター」を通してのものだった。しかし、実際のキューバは、共産圏に対して想像しがちな「暗くて不自由な」イメージとは程遠く、
彼らは近年欧米にも演奏に出掛けるほどその名声が上がっていますが、大都会ハバナには一切出ずに、小さなホームタウンにこだわり続け、由緒正しい「ソン」を聞かせてくれる人間国宝的バンドです。
このチャンスを見逃す手はありません。チケットの販売は八月十日から市内三公民館及び市民会館で。

（一） 般 前売二、五〇〇円 当日三、〇〇〇円
〈大 学 生 前売二、〇〇〇円 当日二、五〇〇円
〈高校生以下 前売一、五〇〇円 当日二、〇〇〇円
十月六日(日) 午後七時開演。
問い合わせ先 江別市教育委員会生涯学習課事業推進係
☎381・1062

寄稿

日々楽しむ私の生涯学習



細田勝彦さん

野球少年

子供の頃、学校が終わると近所の公園で日が暮れるまで野球をしていました。4人集まれば三角ベース(2塁ベース無し)が始まるといった調子で、公園に行けば誰かかれか野球をしていたものです。

中学校からの部活としての野球は、まさに「学習」でした。上下関係の厳しさは必要以上、精神鍛練の部分がその大部分で、この時期培ったことが、現在社会人として私のプラスになっています。

今「ライアーズ」という草野球チームの監督をしています。昔、公園で遊んでいた友達と二〇年たった今も同じメンバーです。幼なじみということもあってチームワークは最高です。朝四時に起きての朝野球

ですが、眠たい目をこすり仕事辛いのも顧みず仲間が集まります。札幌から来るのもしば、美唄から一時間かけて来るのがあります。それでも皆が口々に言うのは「ストレス発散」という言葉です、朝から大声を出し、一つの球を追いかけて一喜一憂し、清々しくとても気持ちの良いものです。

今後、楽しむ部分では体が

続く限り朝野球をしたいのですが、かなり限界に近づいてきたので、ビールを飲んでのテレビ観戦が主になるでしょう。

(青年会議所)

夫婦で健康

四、五年前から夫婦でパークゴルフを始めた。

それまでは、休みになるとパチンコに出掛ける夫に置いてきぼりにされ、寂しい思いをしていましたが、パークゴルフを始めてからは休みの日が待ち遠しくなり、初めての



メールが届いています



深瀬尊子さん

「ねえ、楽しいから絶対対話めたらいいよ!」、という友達の話聞いてから半年後、私もやっと自分自身のパソコンを持つことができました。しかし、実際にインターネットに接続してEメールができるようになったのは、パソコン購入から一ヵ月ほどたって

からでした。

Eメールを始めてからコミュニケーションの選択肢が増えました。でも、その反面、相手に自分の気持ちや言いたいことを文章で伝えるということが、すごく難しいことなんだと実感しました。こんな風にまだまだ自分の



親子でバターづくりに挑戦
おいしくできるといいね

コースに出掛けるのが何より楽しみです。

運動では何をやっても夫についていけないかった私ですが、これだけはルールも成績も気にせずにできるのです。夫も「対等に遊べるし、健康にも良い。」と言って、喜んで付き合ってくれます。



多田正江さん

年々厚くなるお腹の脂肪を少しでも減らすように、パークゴルフの時は一万歩を目標に歩きます。あまり成果は上がりませんが、草の上を歩く

思い通りにはならないEメールですが、メールの交換をしている人がいます。中には遠く離れた場所にいる人もいます。どんなに遠く離れていても、いつでもつながることができることにすごく驚きました。

Eメールをするようになって、手紙を書くようになりました。早さはもちろんEメールにはかないませんが、手紙をもらった時はとても嬉しくて、文章がまとまらなくて困る時もあります。手紙やハガキで近況を知らせたりする

のは足や腰にとっても心地良く、夫の腰痛も知らず知らずのうちに楽になるそうです。

年に一、二回は兄弟達と観光を兼ねてパークゴルフ旅行に行きます。日が暮れるまで遊び、温泉に入り、おいしい食事を食べ、ぜひたく三昧させてもらいます。

年齢層も幅広く、服装もかまわず、何よりも健康的・経済的なパークゴルフをこれからも続けていきたいと思っています。

(幸町在住)

回数が増えました。

Eメールのおかげで人の切さが分かってきました。これからは、もつと文章が上手になって、自分の気持ちを早く伝えられるようになりたいと思っています。

(野幌末広町在住)



江別市母子会

畑 和子

当会は、昭和三〇年、母の手一つで子育てをする人の相互扶助等から発足、四五年には社団法人江別市母子会として認可を受けました。物もない、制度もない、ないない尽くしの中、心が一つにまとまっていたことが、今日まで続いてきた理由だと思います。

力の結晶です。当会では、母子世帯のお母さん達に魅力ある会をアピールするために、自立促進事業を開講して簿記・ワープロなどを勉強してきました。昨年もホームヘルパー二級課程を土・日を利用して四カ月（一三〇時間）勉強し、一人も



ホームヘルパー2級講習会の実技
シーツ交換は順序良くしましょ



子どもとのふれあいは何より大切

母子団体の要望を声を大にして響かせてきたことで、いくつもの制度ができ、母子福祉の向上につながりました。例えば、児童扶養手当制度は、一八歳の誕生日で支給停止でしたが、高校卒業まで拡大できたのも、全道・全国のお母さん達の声と

お母さんがんばって

書をいただきました。でも、残念ながら、介護保険制度がスタートしてヘルパーの需要が高まっているのに、短時間のパートでは生活安定に結びつかず、活かされていないのが現状です。介護の仕事は好き、お年寄りとも関わりたいという人はたくさんいるのですが、それでもめげずに、個々に更にはライセンスに挑戦しています。

道母連の事業に高校生の奨学金給付制度があります。全道二〇〇数名のうち、当会から三名程推薦しています。年額六万円は経済的に喜ばれています。そして、一番大切

なのは、子どもとのふれあいです。年二回、会員の親睦交流と研修を兼ねて行事に創意工夫しています。地域の支援あつてこそ継続できることなので、積極的に社会参加する努力も忘れてはならないと思います。

〈事務局 総合福祉センター
内 ☎382-2250

この人おススメ!



川村宗祐さん

「茶道は、思いやりと、感謝する心を大切にいたします。」
一番町にお住まいの川村さんは自宅2階の茶室『歩歩庵』で静かに語ってくれました。

10代からもう60年近くもの間お茶の世界に生き、現在は茶道裏千家教授として、道新文化教室の講師、自宅等いくつか教室をお持ちになり、ご活躍の毎日です。

「お茶を知らない人、特に小さなお子さんや若いお母さん達にリラックスしてお茶を体験してもらいたいです。要望があれば幼稚園や保育園等にも出向きたいと思います。」川村さんは最近の青少年の荒廃に心を痛めており、お茶を通じて情操教育に役買いたいとおっしゃっていました。きちんと正座して伝統文化を味わう、そういう時間は今の子ども達に必要なのかもしれない。

〈お問い合わせ〉川村宗祐さん
☎382-3181



今の時代、どうやって自分をアピールする？

自分って何？ 生きるって…

講座『自己表現とコミュニケーション』

春の生涯学習講座は五回シリーズで行われ、個性豊かな講師が揃っていた。

一回目の講師鷺田氏は、大出、初めから彼女達を否定している雰囲気、あれはあれでいいと思うけど」という私の気持ちを、偶然にも代弁してくれた人は、皆の冷たい視線を浴びていた。

ともかくも、参加者は高齢者がほとんどで、老若男女入り交じった受講風景が見たいなあと思うのだった。(稲田)

春の生涯学習講座は五回シリーズで行われ、個性豊かな講師が揃っていた。

一回目の講師鷺田氏は、大出、初めから彼女達を否定している雰囲気、あれはあれでいいと思うけど」という私の気持ちを、偶然にも代弁してくれた人は、皆の冷たい視線を浴びていた。

ともかくも、参加者は高齢者がほとんどで、老若男女入り交じった受講風景が見たいなあと思うのだった。(稲田)

ご案内

市内学習ポイント⑮



北海道立埋蔵文化財センター

原始林に囲まれた静かな場所に、レンガ調の真新しい建物が建っています。北海道埋蔵文化財センターは、埋蔵文化財の保護、保存、活用を図ることを目的に平成11年11月11日に開館しました。

常設展示や図書の閲覧の他にも、考古学教室や講演会等を開催しています。

【平成12年の予定】

〈記念講演会〉11月11日(土) 13:30～

北海道考古学の諸問題～チャンをめぐって～

講師：宇田川洋氏(東京大学文学部教授)

〈テーマ展・トピック展〉

・こはく展 7月11日～9月10日

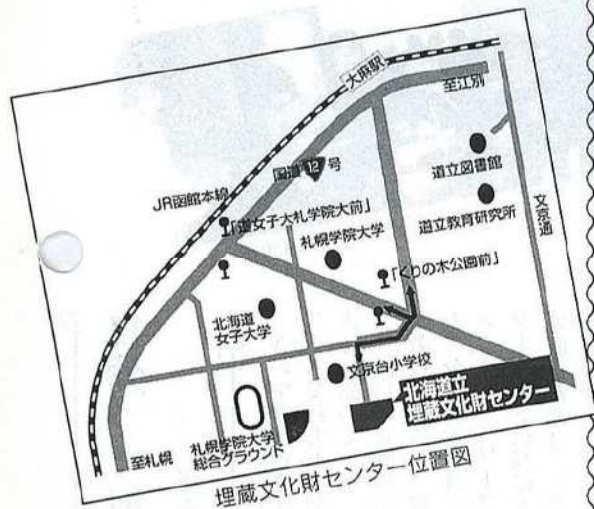
・チャン写真展 9月12日～11月26日

〈考古学教室〉

・土器の移り変わり 9月9日 50名

・玉作りに挑戦 12月9日 20～30名

お問い合わせは、同センター(☎386-3231)へ。



埋蔵文化財センター位置図

私の宝物
凍土に生きて

近藤与四郎

終戦の年昭和二〇年から三年余りのシベリアでの抑留生活(あの苛酷で悲惨な体験)を、子や孫たちに何らかの形で残しておきたい。そんな思いで以前から断片的に書きためていた手記、それをまとめてみようと思ったのは平成元年七月のことでした。



製本まで完全手作り、四ヶ月後に完成したA5判六九ページ(の冊子「シベリア抑留記」)の冊子「シベリア抑留記」を手に、これが私の宝物です。

価値も無いものでしょう。それでも最初に作ったのが五〇部、その後も請われるままに増刷し、合わせて百部以上作ったと思います。

文章、イラスト、体裁、どれをとってもお世辞にも立派とは言えないもので、他人様から見れば宝物どころか、ゴミ程の

「ああ、ボケないうちに作っておいて良かった」と、しみじみとそう思っています。(上江別西町在住)

終戦後、六〇万人以上といわれる人達が、氷点下五〇度以下の極寒の地シベリアに抑留されたという事実、その内六万人以上といわれる人達が凍土に果てた事実。それもこれも半世紀以上過ぎた今では人々の記憶も薄れ、社会的にもすっかり風化してしまいました。こうして現実を感じる時には、この本を手にして当時を回想し、

言いたいこと

あるでしょう?

老年の主張

江別市の元気な高齢者のみなさん、声を大にして言いたいことたくさんあるんじゃないですか。「第五回えべつ老年の主張大会」では、まだまだ原稿を募集していますよ。今年のテーマは「新世紀へ連れていきたい、いきたくないです。みなさんが生きてきたこの二〇世紀も、今年でサヨナラです。この世紀の変わり目をただぼんやりと迎えますか。それとも、二〇世紀をじっくりと振り返り、また二一世紀に夢を描いてみますか。前述のテーマ、決して難しくはないと思います。はっきり言って「何でもアリ」です。今の世の中を見渡すと、「こ

れはいいことだから続けていきたい」とか、「こんなことはもう止めにしよう」と言いたくないこといっぱい目につきます。そういつたことを文章にして形に残してみましよう。どんなに立派な考えも、誰かに伝えないと価値が生まれません。たくさんのご応募お待ちしております。(八月末現在)

応募方法く四百字詰め原稿用紙四枚程度に論旨をまとめ、八月三十一日までに市教委生涯学習課(高砂町24番381・1062)へ郵送か持参してください。なお、原稿の末尾に住所・氏名・生年月日・電話番号をお忘れなく。 ※賞品有



老いてなお旺盛な学習意欲

編集後記

先日、映画「ブエナビスタ ソシアルクラブ」を観た。ロス・ナランホスと同様のキューバの爺さんバンドのドキュメンタリー映画だが、映画のハイライトのカーネギーでのコンサートは鳥肌が立った。ロス・ナランホスは、それほど派手に取り上げられていないが、CDで聞く限り、ポーカーの歌声はこちらの方が断然良い。一〇月のコンサートがとてもしみ。